

年頭のご挨拶

組長 纒澤成互

賀正

あけましておめでとうございます。本年度は昨年にかけて「弥陀の本願を信じ、念仏申さば仏になる」の標を掲げました。先般の宗祖親鸞聖人の750回ご遠忌では、遠近を問わず満堂の参詣の方々のお姿を見るにつけ、歎異抄の「おのおの十余ヶ国のさかいをこえて身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころごし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり。」のお言葉を思い出しました。私達の先達は、聖人のもとに念仏の教えを聞くために遥々と旅をされたのです。

このような聞法への飽くなき意欲が、現在とは比べものにならない貧しい生活の人々を支えたのです。こうした先人の心のあり方を、厳しい時代に生きる私達は今ももっともって学ばねばならないと考えます。

年頭に当たり、計画した事業が私達の心を磨き「共に生きる力」を培うよう願ってやみません。

新年のご挨拶

組門徒会長 小高寛三

新年明けましておめでとうございます。

日頃は、組門徒会事業に格別のご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。東日本大震災の被害地には我々の同朋である真宗門徒の方々が多くおられるそうですが、昨年は復興元年と言われながら、復興事業がまだまだ軌道に乗っていない状況にあるとの報道を聞きます。現在教区・組共に支援取り組みが継続されているところであり、一日も早く復興が進みますことを願うものであります。

門徒会の事業として、各種教化事業の取り組みを進めているところでありますが、先の組門徒会長研究会において、同朋会運動の原点や運動の推進についての講義を拝聴し、同朋会運動の展開の重要性を改めて感じたところであります。各寺院におかれましても熱心に取り組んでいただいておりますが、なお一層の創意工夫により一人でも多くのご門徒に参加をいただき同朋会活動が展開されることを念願いたします。本年も組の主催で6月には同朋大会の開催を予定しておりますので、多数のご参加をお願いいたします。

今年は、教如上人の400回忌にあたります。戦国の乱世に生をお受けになり上人は56年の波乱の生涯を送られました。徳川家康から現在の真宗本廟境内地の寄進をお受けになり、この湖北地方に特にご縁が深い方です。本山において4月2日～4月4日に法要が厳修され、教区で参拝の計画もされております。多数の皆様方とともに参拝したいものです。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、門徒会の事業に対しご理解を賜りますことをお願いしましてご挨拶といたします。

お寺の掲示板

了覺寺（高月町熊野）

熊野の了覺寺様は、四十戸余りの集落で、山本山の北側の麓ふもとにあり山と田んぼに囲まれた所で、集落のやや北部にあります。

お寺の正面右側に掲示板があり『教えの風に触れ喜びの生活に生きる』という住職のお言葉が書かれてありました。その心の内は「このごろの世相は、末法濁乱まつほうじよくらんというが、光のない暗闇くらやみの中で、人間らしさのない、生活を送っています。ここに光を求め仏の教えを仰ぎ人間らしさを取り戻し、毎日が喜びのある活気溢れる生活をしたいです。」と、話して下さいませ。

くまのとしかみ

した。熊野俊文住職は、月に一回程度前任住職と内容を相談されて掲示されることでした。又、「こうした取り組みが単なる掲示板ではなく、聞法の

の道場のひとつとしての存在になればと気がつき、私自身も含めみんながナマダブ・・・と自然に口からこぼれる様に、掲示板に書いてある文字が自然と目に入り、口から音読出来るといいなと思っ

と話されました。お目にかかり、住職が掲示伝導に大きな願いをかけられておられること知り、皆さんも掲示板のお言葉に触れられたらと思



（取材 広報委員）

壮年会からのお知らせ

新年明けましておめでとうございます。昨年は、各種壮年会活動に多くの皆さんの御参加を頂き、有難うございました。本年も、3月23日（土）に研修旅行を計画しております。今回は、京都の本山参詣と浄土真宗本願寺派の本山（西本願寺）及び、宗祖親鸞聖人が9歳で得度された、青蓮院に参詣させていただきます。

昨年と同様に各お寺さんを通じて御案内させていただきますので、ご予約下さるようお願いいたします。皆様のご参加をお待ちしております。合掌

【訂正】

前号（150号）に誤りがありましたので、お詫び方々訂正致します。

*壮年会副会長 富永啓二（誤）⇒富永敬二（正）

【敬 弔】 禿聖氏を偲んで

秦 信映（明徳寺住職）

去る十一月十一日、円行寺（西柳野）前住職禿聖氏がご命終されました。生前のご功労を偲び謹んで哀悼の意を表させていただきます。

氏は、二〇〇二（平成十四）年四月から三年間当組の組長を務められ、大きな功績を残して下さいました。在職中は、組蓮如上人五〇〇回御遠忌の開催、その時行われた集団帰敬式、二〇〇三年には詩人の青木新門氏をお迎えしての組同朋大会（二百人を超す参加者）の実施、更には組壮年会の組織化の実現や、組広報発行第百号を新たなスタートとして位置づけ、紙面の充実

に心を寄せられるなど、今日の組教化体制や教化内容の充実に力を注いでこられました。氏は、いつも住職・寺族・門徒等が「寺を開く」の課題を共有し、信頼関係を確立することを念頭に「尽力されました。その精神を忘れる事なく、後に続く私たちも担っていかねければならないと思っています。

氏が組長を退任されたときに次のような言葉を述べられました。「信心は、我が身一人の一大事でありませぬ。どうか恩徳讃のこころを胸底に受け、命あらん限り報恩行を全つとうされんことを誓い合いたい」と申されました。肝に銘じたいと思います。本当に有難うございました。そしてご苦労様でした。

24組子ども報恩講

うきうき うちしきつくり 打敷

打敷

青少年委員会の行事で、11月10日（土）午前10時から横山の慶福寺にて打敷作りが行われました。当日は風邪などで欠席者も多かったのですが、17名程の子ども達が元気いっぱいに参加しました。お話は聞法寺の雲根智城さんにして頂き、打敷作りを始めました。最初に阿弥陀さんの前に飾る大きい打敷を作り、その後にそれぞれの家のお仏壇に飾る打敷を作りました。ペンで絵を描いたり、モールやリボン、毛糸、作り物の葉、ボタンなどの小物をボンドで付けたりして作りました。見本の慶福寺さんの打敷の龍を描いたり、小物に顔を描いて付けたりと、様々な工夫を凝らした可愛い打敷がたくさんできました！

最後は出来上がった打敷を阿弥陀さんの前に飾ってお勤めを行い、組長さんのあいさつで終わりとなりました。

青少年部会 藤



可愛い打敷作り

大きく立派に出来あがった打敷を阿弥陀様の前に飾ってお勤めをしました。



お知らせ 社会問題研修会IIのご案内

日時：平成25年3月23日（土）13:30～

会場：長照寺（高月町唐川）

講師：森 建司氏
講師のプロフィール

1936年滋賀生まれ。
新江州（株）代表取締役会長・滋賀経済同友会特別幹事
滋賀経済産業協会副会長など
著書 「吃音はなおる」遊タイム出版・「環境型社会入門」新風舎等

またとないご縁でございますので、お誘い合わせてご来場くださいます様、お待ちしております。

お寺訪問

樹徳寺（木之本町田居）

報恩講の晨朝にお参りして集団登校！

樹徳寺様では、去る11月9日から三昼夜にかけて報恩講が勤まりました。午前7時頃に庫裏の方へお邪魔させていただくと、本堂の方からお勤めを終えた土曜学校の子どもたちが、10人ほど「おはようございます」と元気な声をかけながら庫裏の座敷に集まって来ました。そこには前坊守様らがお齋を準備され待っておられました。朝の御講は今では2日に短縮されたそうですが、子どもたちだけは3日間行われていて、学校のある日は制服を着用し、お齋をいただきお寺から集団登校することが定着しているとお聞きし驚きました。40戸程の集落ですが普段土曜学校に欠席している子どもも、報恩講だけは出席し、全員が揃うとのことでした。

30年ほど前から、報恩講の期間中子どもたちも晨朝にお参りするよう呼びかけられ、お齋をいただいてから集団登校することが習慣化されてきました。今日までの前住職を初めとする寺族らのご努力と、保護者の方のご理解とご協力があったとのことと感銘しております。

午前6時30分からお勤めが始まりますので、お参りするためには少なくとも6時前には起床しなければならず、保護者の方も大変だなと思いましたが、実はその保護者の皆さんも子どもの頃に経験されておられるようで、長い間法義相続されてきた賜物だと感心しました。

報恩講が近づくとお寺からご案内のプリントが配布されたり、平素からお寺とご門徒の交流を密にしていく取り組みをされているからこそ、このようなことができるのだなと思いました。食前の言葉、食後の言葉を大きな声で合掌しながら唱和している子どもたちの顔は、ご門徒の手作りの温かい御講汁に大満足しているような笑顔でした。

(取材 : 広報委員)

午前6時30分よりお勤めの風景
子供たちが一番前に並んでいます。



お勤めが終わった後、お齋をいただいてから集団登校します。カバンもいっしょに持って来て座敷に置いています。